

医師による遠隔での死亡診断をサポートする看護師を対象とした研修会 プログラム

在宅看取りに関する講義・演習 <1日目>						
時間	所要時間	方法	講義内容	学習・到達目標	講師	研修内容
8:30-		受付				
9:00- 9:10	10分	オリエンテーション 研修会の流れ、研修受講方法、受講記録、受講管理方法の説明			事業協会	
9:10- 10:10	60分	講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを利用した死亡診断等の経緯、概要、関係法令</li> <li>死因究明・死因統計制度</li> </ul>	制度の概要・関係法令、死因究明・死因統計制度について及び本制度における看護師の役割が理解できる	行政担当者 (医政局)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを利用した死亡診断等の経緯、概要、関係法令</li> <li>死因究明・死因統計制度</li> </ul>
10:10-	10分	休憩				
10:20- 12:00	100分	講義	法医学に関する一般的事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>死因論</li> <li>内因性急死</li> </ul>	死因論、内因性急死について一般的事項が理解できる	法医学専門家	<ul style="list-style-type: none"> <li>死因論</li> <li>内因性急死</li> </ul>
12:00-	60分	昼食				
13:00- 14:40	100分	講義	法医学に関する一般的事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>外因死</li> </ul>	外因死について一般的事項が理解できる	法医学専門家	<ul style="list-style-type: none"> <li>外因死（損傷・中毒）</li> <li>外因死（窒息論、異常環境死、虐待死）</li> </ul>
14:40-	10分	休憩				
14:50- 17:30	150分 途中休憩 10分	講義 演習	実際に使用する機器を用いた医師への情報伝達のシミュレーション  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;">                         ガイドライン  <b>Step 3</b>  <b>Step 4</b>  <b>Step 5</b> </div>	死亡確認および機器の使用方法が理解でき、医師への伝達を実践できる。また、死亡確認後の説明の流れが理解でき、医師から遺族へ死亡診断を伝える補助と死亡診断書の交付が実践できる。	法医学専門家	<ul style="list-style-type: none"> <li>死の三徴候の確認方法</li> <li>異常死に関する確認方法</li> <li>機器の使用方法</li> <li>機器を使用した医師への伝達方法</li> <li>機器の使用による医師から遺族への死亡診断の伝え方</li> <li>死亡診断書の作成方法</li> </ul> ※上記内容をシミュレーションする
17:30- 17:40	10分	1日目のまとめ 2日目の研修の案内				

在宅看取りに関する講義・演習 <2日目>						
時間	所要時間	方法	講義内容	学習・達成目標	講師	研修内容
9:00-9:30	30分	講義	法医学と看護	法医学と看護の関わりについて理解できる。本制度の活用の中で留意すべき犯罪症例等について理解できる。	看護学専門家	<ul style="list-style-type: none"> <li>法医学と看護の関わり</li> <li>虐待や犯罪被害等について</li> </ul>
9:30-10:50	80分	講義 演習	ICTを利用した死亡診断等の制度を活用する利用者・家族に対する意思決定支援と死亡前から死亡後に至る利用者・家族への接し方  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           ガイドライン  <b>Step 1</b>  <b>Step 2</b> </div>	意思決定支援の意味、利用者と家族の意思を尊重した意思決定支援について理解できる。本制度を活用する利用者・家族の意思決定支援のあり方・方法を理解でき、具体的な支援方法を検討して実践できる。死亡前から死亡後に至る利用者・家族との接し方の留意点等を理解でき、それらに配慮した実践ができる	看護学専門家	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅看取りに関する基本的な看護の役割</li> <li>本制度における意思決定支援</li> <li>同意書の説明方法と書き方</li> <li>利用者と家族への接し方</li> <li>死亡確認をするための説明の仕方</li> </ul> ※家族への説明を少人数でロールプレイする
10:50-	10分	休憩				
11:00-12:00	60分	グループディスカッション  発表	ICTを利用した死亡診断に関する在宅看取りの実践についての意見交換	研修受講後、ICTを利用した死亡診断に関する在宅看取りの実践について、事業所内の体制整備、対象者の選定、医師との連携等に対する自らの課題や障害となることを発言し、対策を共有できる。	法医学専門家 看護学専門家	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践する際の課題、心配事</li> <li>事業所内の体制整備</li> <li>医師との連携方法</li> <li>対象者の選定</li> <li>ガイドラインに当てはまらない事例 等</li> </ul> ※上記内容についてディスカッションする
12:00	60分	休憩				
13:00-14:30	90分	演習	実際に使用する機器を用いた医師への情報伝達のシミュレーション（復習）	死亡確認および機器の使用方法が理解でき、医師への伝達および医師の死亡診断補助を実践できる。	法医学専門家	1日目のシミュレーションを再度実施し、自身の技術を確認する
14:30-	10分	休憩				
14:40-15:10	30分	実地研修、修了証交付の手続き等に関する説明 終了の挨拶、アンケート記入			事業協会	
II 実地研修 ※						
	2日程度	演習	2体以上の法医学解剖又は死体検案への立ち会い	遺体の観察に必要な手技を身につけることができる	協力医療機関	

※「II 実地研修」は「I 在宅看取りに関する講義・演習」後に受講。

○修了証：受講記録で受講状況の管理を行い、すべてのプログラムを履修した場合に修了証を交付する。